

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



令和4年度 近畿中国森林管理局 重点取組事項について

【企画調整課】

近畿中国森林管理局で森林の公益的機能の発揮や林業・木材産業の発展に向け取り組むこととしている「令和4年度重点取組事項」を御紹介いたします。



令和4年度重点取組事項「表紙」

1 治山・災害復旧対策の推進

激甚化する自然災害の早期復旧に取り組み、地域の安全・安心を確保するため流域治水と連携した国土強靱化対策を推進します。

○民有林直轄治山事業の着実な実施



【溪間工】

(広島県東広島市 東広島地区：高屋)

○大規模台風被害地（貴船・鞍馬地区）の森林再生



【斜面安定対策工】

(京都府京都市 貴船山国有林)

○流域治水と連携した国土強靱化対策



【赤羽川上流域の治山対策】

(流木捕捉式治山ダム)
(三重県紀北町 鍛冶屋又国有林)

2 市町村等民有林への技術支援

戦後植林された人工林が本格的な利用期を迎える中、これらの森林資源を循環利用し、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を両立させることが我が国の森林・林業にとって重要な課題となっています。こうした状況をふまえて、国有林のフィールドや技術を活用して市町村行政などの民有林の支援に取り組みます。

○現地検討会の開催、動画配信



【当局ホームページに掲載している動画】

○ICT技術の普及に向けた出張講義や森林・林業技術視察プログラム



【ドローンによる空中からの森林面積の測量】
(滋賀県甲賀市 三郷山国有林 R3.11)

○国有林職員向け研修が市町村職員でも受講できます



【森林の生育状況の把握】
(大阪府箕面市 箕面国有林)

3 「新しい林業」への挑戦

森林・林業基本計画（R3.6.15 閣議決定）で位置づけた、イノベーションで伐採から再生林と保育の収支をプラスへ転換させる「新しい林業」の実現に向け、国有林では生産性向上や低コスト再生林、効率的な鳥獣被害対策等の実証・普及に取り組むこととしています。近畿中国森林管理局では、「新しい林業」推進プロジェクトチームと4つの部会を設置し、「新しい林業」の確立に向けて挑戦します。また、その成果は民有林へも普及を図ります。

近畿中国森林管理局の体制

「新しい林業」推進プロジェクトチームの設置（R4.3.25）

- | | |
|---|--|
| <p>部会 ① 低コスト省力造林部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下刈りの省力・削減の取組 ・ 低密度植栽とシカ対策の取組 等 | <p>部会 ③ 鳥獣害対策部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報分析等 ・ 効果的な捕獲と技術開発 等 |
| <p>部会 ② 低コスト素材生産流通部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫調査の効率化・省力化 ・ 素材生産の生産性向上 等 | <p>部会 ④ 新技術導入・普及部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の技術向上等人材育成 ・ 民有林関係者への普及 等 |

4 ICT 技術の導入や他機関と連携した業務の推進

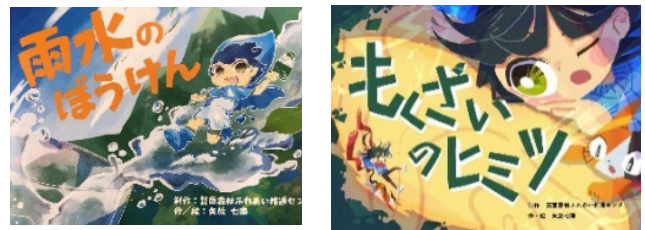
ICT 技術等を活用し国有林野事業の管理経営の効率化を図るとともに、ホームページでの情報発信の充実化にも取り組みます。また、環境省や林業大学校等、多様な機関と連携・協力しながら地域課題の解決にも貢献します。

○ VR 森林散策



いちじょうや
(滋賀県大津市 一丈野国有林)

○ デジタル紙芝居及び絵本の作成・配布



第1作目
雨水のぼうけん

第2作目
もくざいのヒミツ

○ 国立公園と国有林の連携

【ビニール被覆による予防措置及びカシノナガキクイムシ捕獲トラップ設置の様子】
(鳥取県大山町
だいせん
大山国有林)

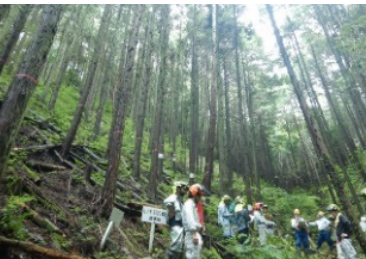


○ 里山広葉樹林活用・再生プロジェクト

【里山広葉樹林】
(岡山県新見市
かまたに
釜谷国有林)



○ 林業大学校等への支援拡充



【低密度植栽の現地講義】
(広島県福山市
しんもとしげやま
新元重山国有林)

「令和4年度近畿中国森林管理局重点取組事項」については、当局Webサイトに掲載していますのでご覧ください。

局ホームページ URL・QRコード

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kikaku/juuten.html>



管内初！樹木採取権始動 ～樹木採取権実施契約締結式開催される～

【資源活用課】

近畿中国森林管理局は、岡山県新見市に所在する^{ようこうさん}用郷山国有林外2を対象に指定した「近畿中国1新見樹木採取区（区域面積：250.68ha）」において、令和4年3月18日付けで株式会社戸川木材に令和13年3月31日まで樹木を採取する権利（樹木採取権）を設定しました。

また、3月30日には、近畿中国森林管理局 森林技術・支援センターにおいて、柏原局長、同社代表取締役 戸川睦徳氏、局・署関係者出席のもと「樹木採取権実施契約締結式」を執り行いました。



契約締結後の写真（戸川代表取締役（左）、柏原局長）



握手する戸川代表取締役と柏原局長

式典では、局担当者からの概要説明のあと、柏原局長と戸川代表取締役が契約書に署名し、固い握手を交わしました。

その後、柏原局長から「昨年のウッドショックにより輸入木材の供給リスクが顕在化した中で、国産材のシェアを拡大し、世界情勢の影響を受けにくい環境を整備していくことが肝要、今回の樹木採取権設定を契機に、国産材の安定供給、地域における森林・林業・木材産業の発展と我が国林業の成長産業化の実現の一助となることを期待する」と挨拶があり、戸川代表取締役からも「ウッドショックに加えてウクライナ情勢で国産材の需要はますます高まっていく。当社としても樹木採取権制度による権利の行使と義務を果たす中で木材の安定供給に貢献するとともに、50年後の豊かな森林資源を後世に残せるよう努力していきたい」とお礼の挨拶がありました。



挨拶する柏原局長



挨拶する戸川代表取締役

樹木採取権制度は、民有林で始まった森林経営管理制度の要となる林業経営者を育成するため、国有林の一定地域（樹木採取区）において、一定期間、安定的に樹木を採取できる権利を民間事業者を設定するものです。

本制度の運用により、樹木採取権者が安定的な事業量を確保することで、計画的に機械の導入や人員の確保を行うことが可能になるとともに、川上である樹木採取権者と新規需要開拓に取り組む川中・川下事業者との協定の締結による供給体制が整備され、国産材の安定的な取引関係の構築を促進することが期待されます。

この度の実施契約は、権利存続期間9年のうち令和8年3月31日までの4年（第1期分）を期間とするもので、令和4年度より事業が開始されます。

近畿中国森林管理局では、本制度の趣旨に即した運用を通じて、効率的かつ安定的な林業経営への支援を行うとともに、地域における産業の振興に寄与する取組を引き続き進めてまいります。

「令和3年度七里御浜防風林GG作戦」を実施しました。

【三重森林管理署】

三重森林管理署では、3月10日（木）及び11日（金）に「七里御浜松林を守る協議会^{しちりみはま}※」と共同で「令和3年度七里御浜防風林GG作戦」を実施しました。

GGとは、グリーン（松林を守り）グロー（育てる）という意味で、平成5年度から植樹や林内清掃に取り組んでおり、今回で27回目となります。

今回は、新型コロナウイルス感染防止のため、一般参加者による植栽は実施せず、協議会事務局関係者による植栽としました。



GG作戦・御浜町会場



GG作戦・熊野市会場

植栽は、「マツクイムシ抵抗性クロマツ」を熊野市会場、御浜町会場及び紀宝町会場に各80本づつ、計240本の



GG作戦・美浜町会場



GG作戦・紀宝町会場

植栽を実施しました。

※ 七里御浜松林を守る協議会とは、七里御浜松林の自然環境の整備等、公益的機能の維持向上を図るため、関係機関の連携を密にするとともに地域住民の協力も得て効果的かつ適切な対策を講じ、七里御浜松林の保全に資することを目的に、所在する紀宝町、御浜町、熊野市と三重県（熊野農林事務所）、環境省（近畿地方環境事務所）、三重森林管理署で構成する協議会です。

（三重森林管理署ホームページ）

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/information/index.html#index74>



にちなん中国山地林業アカデミー卒業式に出席しました。

【鳥取森林管理署】

3月17日（木）、にちなん中国山地林業アカデミー（鳥取県日南町）にて、第3期生13名の卒業式が執り行われ、当署の中本署長が森林技術・支援センター篠原所長とともに出席しました。

卒業生らの就職先は県内8名（うち町内4名）、広島県3名、岡山県2名となっています。学校名のとおり中国山地を舞台とする各地の林業現場に巣立って行かれました。

式典では、署長から卒業生に対して、国有林で少花粉スギのコンテナ苗の植栽や森林調査にご協力いただいた御礼とともに、皆様がそれぞれの道で地域の林業を支える中心になるよう期待していますとエールを送りました。

卒業生代表からは、学長らに「アカデミーをはじめ様々な現場で講師を務めていただいた方々に感謝し、ここで学んだことを胸に精進したい」と力強い決意表明がありました。

鳥取森林管理署では、引き続き、国有林内での実習受け入れ等アカデミーの人材育成に協力していく考えです。



祝辞を述べる中本署長（当時）



卒業式集合写真

大亀谷国有林における里山再生プロジェクト

【奈良森林管理事務所】

奈良森林管理事務所では、所に隣接する大亀谷国有林おおかめだに（奈良市赤膚町）において、竹の侵入により侵害された里山林の再生を目的として、竹の繁茂が著しい箇所のうち約0.20haを試験地として設定し、竹の伐採、広葉樹の植栽、竹の繁茂の抑制作業など、5年間の試験計画を作成し、令和3年度から取組を開始しました。



事前準備（植穴掘りの様子）



植栽の様子（職員とOF会）

試験の開始に先立ち、3月3日（木）に、ヤマザクラ30本、イロハモミジ30本、ヤブツバキ20本、ミツバツジ20本の植栽を行いました。植栽するにあたり、竹の繁茂が激しく、現地は竹の根が縦横無尽に張り巡っており、植え穴を掘るのも一苦勞な状態でしたが、2月28日（月）に事前作業として竹の根



植栽後（ヤブツバキ）

の切断及び掘り起こし処理等を行うなど、OF会（林野庁OB）の協力をいただきながら、事前準備は勿論のこと、植栽当日もスムーズな作業を行うことができました。



植栽後の集合写真（OF会・奈良所職員）

今後は、植栽木の成長にむけた森林の整備、竹の繁茂の抑制作業を行いつつ、作業実施にあたってはOF会の御協力も得ながら、里山再生に向けた取組を継続してまいります。

奈良森林管理事務所における低コスト造林に向けた取組

【奈良森林管理事務所】

奈良森林管理事務所では、造林コストの低減を目的とした取組として、高取山国有林たかとりやま（高市郡高取町）において、スギ、ヒノキの樹種別、1年生苗のコンテナ苗（生分解性コンテナ苗[※]）、2年生コンテナ苗（マルチキャビティーコンテナ苗）、2年生普通苗の4種類の苗を現地に植栽し、植栽時のコスト比較、樹種毎の成長量比較、保育初期段階のトータルコストの比較（5年間）を行う試験地を



現地に設置された試験地看板

を設定しました（試験期間：令和3年度～令和7年度）。

現地には、取組が詳細にわかる案内看板を設置し、取組の成果等については、現地検討会などを通じて民有林の方々に向けた技術普及の啓発に取り組んでまいります。



森林官による試験地の説明の様子

※生分解性コンテナ苗とは、トウモロコシを原料とした容器に植栽された苗木で、植栽後に容器は地中で分解し自然に還ります。

お知らせ

庁舎への立入制限について【解除】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため行っていた、業務関係者以外の庁舎への立入り制限は4月1日をもって解除しました。

ご理解、ご協力を頂き有り難うございました。

桜ノ宮合同庁舎管理者

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○森林のギャラリー（局庁舎1階）

4月8日（金）から高知県大阪事務所と「NPO 自然と緑」の展示をしています。よろしくお祈いします。

これまでの展示の内容は次の局ホームページで見ることが出来ます。

花草木

【菜の花（なのはな）】

菜の花（なのはな）は、アブラナ科アブラナ属の花の総称。特にアブラナまたはセイヨウアブラナの別名としても用いられます。菜の花の「菜」とは食用の意味であり、菜の花とは食用の花の意味です。

元々は、西アジアから北ヨーロッパの大麦畑に生えていた雑草で、農耕文化と共に移動したと考えられ、漢代の中国に渡ると栽培作物となり多様な野菜を生むなど、東アジアで古くから栽培されていたようです。日本では弥生時代以降から利用されたとみられています。

江戸時代になって、植物油の採油目的として栽培され、その油は菜種油と呼ばれました。菜種油は、主に灯油原料として利用され、生活に密着したものとなりました。そのため、菜種という言葉は、一般的な植物名として定着しました。また、一般にアブラナ属植物の種子からは油が採取でき、カラシナやカブも利用されています。

丈夫で育てやすく広く栽培されたなじみ深い作物で、また、菜種畑は明るい黄色が畑を覆う「菜の花畑」として春の風物詩とされ、歌や文学作品の題材となりましたが、明治時代以降はセイヨウアブラナに置き換わっています。

【花言葉】

快活な愛、明るさ、豊かさ、財産、競争、小さな幸せ等、菜の花はポジティブでプラスなイメージの花言葉が多いです。

「春先に咲く鮮やか花で、心を明るくしてくれる」、「青空に向かって咲いている姿は見るだけで元気になれる」等の見た目からこのような花言葉がつけられているようです。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



○フォレスター NEWS 2月号 (No.57) を発行しています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/sidou/foresuter/katudou.html#> 近畿中国局フォレスター NEWS



【箕面森林ふれあい推進センター】

○こだま通信 119号を発行しています。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/booklet/kodamatushin.html



【三重森林管理署】

○大杉谷国有林からの手紙 (54通目) を発行しています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/information/oosugitegami.html>



神戸市内の農園で撮影した菜の花

我が所のスタッフ 和歌山森林管理署 小谷 悠人 (おだに ゆうと) (令和3年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

私は業務グループ経営担当の係員として立木販売にかかる公売公告の作成や収穫調査、またその事前踏査などを行っています。経営は資源活用（木材の生産）や森林育成（森林を育てる）に関わることもあれば、地籍関連で総務グループの管理に関係することもあり、様々な経験をしています。

最近では獣害対策の一環として、試験的に導入される囲い罫の設置に携わりました。

【職場の雰囲気は？】

分からないことも聞きやすい、和やかな雰囲気の中で仕事をしています。

入庁してからの1年間、上司や先輩のおかげで楽しく仕事ことができました。

【林野庁の魅力は？】

行政区分採用でも事務仕事と現場仕事、どちらも経験できるところが他の省庁にはない、林野庁の魅力だと感じています。



コンパス測量の様子

森林事務所紹介

佐伯森林事務所 (広島森林管理署)

首席森林官 宮 達夫 (みや たつお)

佐伯森林事務所は、広島県の南西部に位置し、廿日市市の一部、広島市佐伯区湯来町及び山県郡安芸太田町の一部の2市1町を管轄しています。



宮島国有林

管轄面積等は4,602ha(13団地)であり、このうち宮島国有林が2,394haと約半数を占め、平成8年に登録された世界文化遺産「厳島神社」のバッファゾーンとなっています。

全国有数の観光地である宮島は、宮島国有林が約8割を占めていることもあって、林野巡視が首席森林官の業務の大半を占めていますが、島内には路網が十分に整備されていないことから、チャーター船による巡視も行っています(以前は、官用"船"が配備されていました。)

また、観光客が多いことから、言葉遣いや行動には細心の注意を払いながら業務に臨んでいます。

なお、4月1日から、佐伯森林事務所が廿日市地方合同庁舎内(労働基準監督署、税務署、法務局が入居)に移転しましたので、お知らせします。

これからも開かれた国有林として、気軽に誰でも来訪できる森林事務所を目指していきたいです。



佐伯森林事務所での事務の様子

シリーズ『国有林 最前線！』

「未来の林業従事者」育成への協力
 ～兵庫県立森林大学校との連携・協力～

兵庫森林管理署

兵庫県は、年々高齢化が進み、減少傾向にある林業従事者の育成と確保のため、平成 29 年 4 月、署の所在地でもある宍粟市内に「兵庫県立森林大学校」を開校しました。

兵庫森林管理署では、地域に密着し親しまれる国有林を目指しており、この一環として兵庫県、宍粟市及び兵庫森林管理署の三者により「兵庫県立森林大学校の人材育成等への連携と協力に関する協定」を令和 2 年度に締結し、森林大学校が行う実習のためのフィールドの提供だけでなく、職員を講師として派遣し、これまで培ってきた森林・林業技術や ICT 機器等を活用した新たな技術を紹介するなどの取組を行っています。



兵庫県立森林大学校との締結式 (R2.4.17)
 (宍粟市長、石上署長(当時)、森林大学校長)



就業体験(治山現場実習)の様子



森林大学校(三次元レーザスキャナ実習)の様子

令和 3 年度は、立木が伐採されている現場とそこで使用されている高性能林業機械の見学、新たな ICT 機器である OWL を活用した収穫調査の実習、製品生産事業と造林事業を組み合わせた一貫作業システム[※]による効率的な作業システムの紹介などの取組を行いました。

また、就業体験として森林大学校の生徒を受入れ、職員と一緒に現場業務を行ったり、署長による一般林業行政や国有林野事業の講義を実施、森林林業行政についてもいろんな角度から学んでもらう取組を行いました。

令和 4 年度は、森林大学校からのリクエストに応え、近年被害が拡大しているカシノナガキクイムシによるナラ枯れについて、実際に被害を受けた森林で対策を行っている現場の見学を計画するなど、今後も幅広い視点から対応できる林業従事者の育成のため、署を挙げて森林大学校と連携・協力してまいります。



就業体験(林道ゲート設置)の様子



伐採現場の見学(一貫作業システム[※])の様子

※一貫作業システム：伐採・搬出などの素材生産で使用した機械を利用し、伐採・地拵え・植栽を連携して実行することで低コスト化する作業システム。植栽時期を選ばないコンテナ苗の開発により可能となった。